

磐梯山山行報告

—20年前のテレマークスキー山行を回顧しながら—

【山城】福島県・磐梯山（1816.2m）

【日程と天候】2019年9月1日（日）晴れ

【メンバー】CL菊池、神崎、夏見、常泉

【行程】

千葉—猪苗代 IC—八方台駐車場（1192m）8：34—中の湯—弘法清水小屋—12：09 磐梯山山頂（1816m）—天狗岩（お花畑）—中の湯—駐車場



20年前テレマーク山行で迎った沼ノ平・赤埴山を望む

・百名山を狙っていた 1999 年 4/3、シーズン終了した猪苗代スキー場ボトムから細板・革靴テレマークにて磐梯山山頂に向かった。50 才の頃で体力があったのかスキー場トップから赤埴山の西面急斜面をトラバース沼の平から弘法清水に達し、スキーをデポ、山頂までアイゼン、ピッケルで視界不良の中登頂したのが懐かしい。今回は 20 年ぶりに磐梯山初挑戦の初級者 3 名を引き連れて、猪苗



代ICを降りてセブンで眠気覚ましのコーヒーを購入、山スキーでグランデコススキー場から西大巔にはよく通っているが磐梯山登山には、ほとんど興味が湧かなかった。年を取ると残り少ない??登山人生、時期とルートを変えたハイキングを楽しむ気分になってきて。いつも見る磐梯山を仰ぎ見て登山口に向かった。

・登山口は磐梯山ゴールドラインの八方台駐車場（1192m）、すでにほぼ満車、奥の方によりやく駐車できた。この駐車場から猫魔岳への登山道に進むハイカーも多く、また何ととっても百名山の磐梯山でここからのルートが最も短時間で登頂できるため。土日



に混雑はすごいとのこと。我が家を3:30スタート、那須高原SAでゆっくり朝食（40分ほど）8:34と登山口スタート、クマ出没注意の看板、黒っぽい大きな糞が2か所くらいあったが、熊であろうか??標準タイム30分の中ノ湯に向かって、広い緩やかな登山道を気持ち良いブナ林に癒されながらゆっくり進んだ。



ほのかに硫黄臭の漂う中の湯に到着。廃墟と化した過去の湯治湯、1990年代後半に廃業した。このような名所、旧跡を楽しみながらのハイクの醍醐味を早くも堪能、記念撮影した。野湯の中にボコボコ湧出している温泉は結構熱く、ここで温泉浴を楽しむことがあるのかなあ、と **Wikipedia** を読みながら考えています。下山時でも小生も入浴してみればよかったと後悔しきりです。



- 中の湯からは本格的登山道、ブナ林からダケカンバが多くなり植生や山の植物のやガイドを行いながら、楽しく高度を上げた。大きな特徴的な葉っぱを赤い実の調和が素晴らしい「オオカメノキ」春には白い花が一杯咲き、有名な花木であるから覚えてくださいと、花木・高山植物を愛でながらの山行は素晴らしいとメンバーに勧めました。開けた地点に来ると、桧原湖が見渡せます。



ヤマアジサイが目を楽しませてくれます。20年ぶりに弘法清水に到着、冷たい水は旨かった弘法清水小屋は営業しており、大勢のハイカーが休憩していました。山頂までは標高差約200mの急登が待っています。山頂直下の爆裂火口の断崖は





大迫力です。グレートビューを背景に記念撮影し、初登頂狙いの3名に先行していただき、小生はゆっくり山頂に向かいました。ついに全員登頂です。気持ち良い笑顔で記念撮影です。小生にとっては2回目の登頂、雲が湧い



てきましたが、360度のパノラマが楽しめました。

- 20年前、標高690mのスキー場ボトムからグレンデを登り上げ、赤埴山をトラバースし沼の平を経由して弘法清水へテレマークで辿ったラインが見え感慨深いものがあります。山頂まで標高差1100mあまり、若さゆえ体力も気力も充実していたのでしょう。山



頂では、大勢のハイカーが休憩していました。下山開始、山頂付近にはいくつかの高山植物の花が咲いています。晩夏の旬の花、ウメバチソウです。



下山は弘法清水から天狗岩に向かいます。裏磐梯スキー場方向に下山し、銅沼を見学して中の湯に戻る周回ルートを進む予定でした。裏磐梯スキー場の下るルートを見逃したようで、お花畑を進み、振り返ると山頂方面はこんな感じです。時間的にも厳しく銅沼見学は諦めました。中の湯に戻り八方台駐車場に帰還しました。



・今回は廻り目平をベースにした集中山行が悪天予想のためエリアの変更を考えた。百名山志向の新人 3 名を当初、金峰山へご案内するつもりであったが、好天予想の磐梯山に当日の朝、急遽変更した。

小生にとっては 2 回目の登頂であるが 20 年前のテレマークによる山スキー山行で猪苗代スキー場かアプローチした時のことが蘇り、思いで深い山行であった。

ルート図は今回のものと 20 年前の山スキー山行の時のものを記載しました。

